

## ニューズレターへの期待

伊 藤 克 敏

今年度より所員間の情報交換の場としてニューズレターが発行されることになった。研究所というのはいわば、一つの組織体を成すものであり、それを作り上げている構成員の間には常に有機的な交流関係が維持されなければ、有効な機能を果たすことができない。

従来、当センターの執行機関と所員の関係は余り有機的ではなかったように思われる。所員は図書、視聴覚教材の申し込みと、年一回の研究紀要の受領でセンターと結びついているだけで極めて受動的であった。所員のセンターの能動的な働きかけや、所員間の円滑なコミュニケーションへの願いが、ニューズレター発行の動機になっている。

当センターは全学的な語学教育の推進に重点を置いていることは勿論であるが、狭義の語学教育に縛られることなく、広く日常生活や精神生活を豊かにするような「ことば」の研究、つまり、ことばと文学、社会、心理、文化、思想といった事

柄にも研究範囲を広げて行く方向を志向している。

語学教育は単に教授言語の音声や文法の技能(skills)の向上のみに限定されるべきでなく、その言語の背景になっている社会、文化、民族心理等といったものをも含めるべきであり、語学教師は常に技能面だけでなく、広い背景的知識を身につける必要がある。そういった意味でも文化人類学、社会学、哲学、心理学等の分野の方々の当センターへの貢献を期待すべきであろう。言語の関連諸科学の研究者の参加によって人間教育としての語学教育が助長されることを強く望むものである。

当ニューズレターが上に述べた広い分野の情報、意見交換の場として充分活用され、運営委員会と所員、更に所員間の有機的な関係を密にし、それによってセンターの活動が活性化されることを切望する次第である。